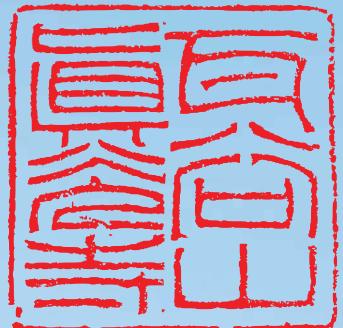


瓦谷山



瓦谷山だより



発行日 2010年12月吉日

発行人 (宗) 真光寺

岡本和幸

印 刷 現代社

編 集 (宗) 真光寺

問い合わせ先

(宗) 真光寺

TEL 0438-75-7414

○お寺HP

<http://www.shinko-ji.jp/>

○上総自然学校HP

<http://www.shinko-ji.jp/satoyama/>

○お寺ブログ【瓦谷山たより】

<http://sinkoj.cocolog-nifty.com/news/>

vol.15

渢声はすなわちこれ広長舌
山色清淨身にあらざることなし

夜来の八万四千の偈

他日如何が人に挙じせん

蘇東坡居士の句です。山の景色や谷の響きは清らかな姿を現し、お釈迦様が説法をしているように真実の言葉を述べ続けているが、その言葉をどのようにして人に伝えようか。といった内容です。

季節は酷暑から紅葉の秋へと進み、冬を迎えるとしています。夏が暑かつたせいか、秋が冷え込むせいか、今年の紅葉は見事な彩です。今春には真光寺、秋には東京四谷の東長寺の檀信徒の皆様と共に、福井の大本山永平寺に参拝し、一年に二回も大本山に参拝する機会に恵まれました。

毎回永平寺に参拝するたびに思うのですが、初めて訪れる方の多くは、若い修行僧がきびきびとした立ち居振る舞いで真摯に修行に励む姿、特に法堂での読経に涙が出るほど感動されるようです。しかし二回目に訪れた方の多くは、「前回ほどは感動しなかった」ということを言われます。

こここのところに永平寺の修行の真髄があると思うのです。永平寺での修行は何か特別なことをしているわけではなく、道元禅師様が決められた通りにただ日常を過ごすだけです。普通の人が、朝起きて顔を洗い、朝食をいただきて歯を磨き、会社に行くのとまったく変わりません。しかし食事の時も、洗面する時も、風呂に入る時も、お釈迦様の時代からの作法の通りに行う、そうした極力私という思いを取り除いた行いを修行と呼んでいきます。自我を抑えた日々の暮らしは、山の景色からの呼びかけや、谷の声に耳を澄ますことができる環境にあります。なかなかお釈迦様のさとられた宇宙の真理が聞こえてくるとはいきませんが、こうした目的のために、大勢の修行僧が日々共に過ごしているのが永平寺という修行道場なのです。そしてその修行に期限はなく、永平寺という場所だから特別ということもありません。



大掃除の季節です。高いところはお任せの住職

住職 岡本和幸

私もも忙しい日常を離れ、わずかの時間でも道元禅師の御寺、永平寺に参籠させていただき、谷の音や山の姿が語りかける八万四千の声に耳を傾け、自らを省みる。それがご本山参拝の意義であると思ひます。
さてこのたび私は、曹洞宗千葉県宗務所所長を拝命致しました。曹洞宗の県知事のようなもので、任期は四年となります。兼務住職として何かと皆様にご迷惑をおかけしておりますのに、さらに新たな役を受ける事になり、誠に申しわけなく存じます。しかし私のような若造がこのような役を拝命するということ 자체、僧侶の世界における危機感の高まりを示していくように思えてなりません。今日の仏教、寺院をめぐる様々な問題は、いよいよ抜き差しならぬところまでできているということでしょう。留守にすることもさらに多くなることと思ひますが、何卒ご理解ご協力賜りたく、よろしくお願ひ致します。

合掌

行事 報 告

瓦谷山だより

◆山門大施食会法要

平成二十二年八月九日に山門
大施食会法要が行われました。

◆秋彼岸会法要

平成二十二年九月二十六日に
秋彼岸会法要が行われました。
法要後は得度式（僧侶となるた
めの出家の儀式）が行われまし
た。この日出家したのは真光寺
職員の手島二郎氏です。僧名は
手島涼仁となります。どうぞよ
ろしくお願ひ申しあげます。

◆寺のある暮らし・秋

平成二十二年十月九・十日の
二日間、真光寺にて寺のある暮
らしを行いました。残念ながら
初日は雨に見舞われ、映画
「禅」の観賞や写経、坐禅に勤
しました。二日目の晴れ間に
はお檀家さんの栗畠で栗拾いを
させて頂いたり、お米の脱穀体
験などを行い、里山の秋を楽しみ
ました。



◆暮縁の会

東長寺で発足したサークル
活動「暮縁の会」の合宿が真
光寺にて行われました。



◆七日法要

午前は仏殿にて当月ご逝去
された会員の方々の月例供養
の法要と新しい会員の方々の
授戒式、午後は季節ごとの行
事が行われました。

真光寺日記

「大本山永平寺参拝と能登の旅」

六月下旬に団体参拝の旅を行いました。

た。二泊三日の行程で真宗大谷派長浜別院大通寺（滋賀県）、（以下曹洞宗）大本山永平寺（福井県）、永光寺、総持寺祖院（共に石川県）といった古刹を訪れました。途中兼六園や輪島朝市にも立ち寄り、北陸の旅を楽しみました。

また今回の旅は檀家さんと縁の会の会員さん揃っての参加となり、またない交流の場ともなりました。

この度は縁の会会員、米山昇司様に旅だよりをお寄せいただきましたので紹介いたします。

大本山永平寺参拝の旅に参加して

私は平成二十一年三月妻を亡くし、一周忌をすませてこれからどう生きていつたら良いのか迷っていたとき、四月に墓参りした際に旅の案内を見て早速申し込みました。五月に行つたときは最小催行人員の申し込みがないのでひよつとしたら中止になるかも知れないとお聞きして心配していましたが、無事旅に行くことができました。

当日は東京駅に集まり新幹線で米原まで行きバスに乗り換え、途中長浜別院大通寺に立ち寄り大本山永平

寺に午後四時頃着きました。私たちが案内されたのは研修道場・宿坊「吉祥閣」でした。早速雲水さん（修行僧）から説明と注意事項を聞きました。

三黙道場—僧堂・東司（お手洗い）・浴室での一切の私語は禁止。

「五觀の偈」—食事を受ける時、反省と感謝等、五つの教えを観念する経句。単に食事のこととせず、生活の全般についてこの教えをあてはめて自己を振り返る教え。

坐禅は当日と翌日の朝教えていただけました。それぞれ二十分ほどでありますましたが長く感じました。

翌日は三時起床し坐禅をして、雲水さんの朝課を見学しながらお参り、七堂伽藍を参拝後八時に五觀の偈を唱えて朝食をいただいた。起床後ずいぶん時間が経過していましたが不思議に空腹感はありませんでした。むしろこの精進料理で若い雲水さんたちの体力が持つのか心配しました。

永平寺を九時に出で兼六園、千里浜渚ドライブウェイ、羽咋・永光寺と見学して和倉温泉に着きました。溢れる温泉水、食べ切れないほどの食事の量。昨日とは雲泥の差の世界で何だか不思議な感じがしました。

三日目は輪島朝市で買い物し、總持寺祖院を参拝。この寺は先の能登半島地震で大きな被害を受け傷跡が残っていました。昨日の永光寺と同様に般若心経を唱えさせてもらいました。また、両寺とも温かいもてなしを受け気持ち良く拝観をすること

ができました。これも住職岡本和幸さんの人脈と人柄によるものと思します。

三日間の旅は亡き妻への供養となり、私自身の心のしづくとなりました。また、この縁は亡き妻のおかげと感謝しています。お墓を選ぶ時、住職の温かい人柄に触れ、妻が決めました。そしてこの旅行に参加でき、体験できました。

最後に住職岡本和幸さま、旅行を計画された方、温かく接していただいた檀信徒の方々、東武トラベル池田さんにお礼申し上げます。

縁の会 会員 米山昇司



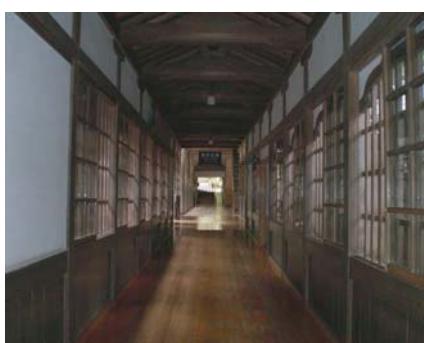
永平寺の参道にて記念写真。
後列向かって右から三人目が米山さん。



総持寺祖院・経蔵 1743年建立
石川県重要文化財



輪島朝市にて。輪島といえれば輪島塗。



永平寺の回廊。二百人近い雲水さんによつて毎朝磨かれている。

【梅花流千葉県奉詠大会】



開山忌御詠歌を奉詠しました



楽しいお茶の時間

練習中。集中しています。



新野師からの一言

モットーは「楽しく・仲良く」皆さんのご参加をお待ちしています！

師範の新野師

十月二十五日、千葉県木更津市にある「かずさアカデミアホール」にて、第十六回梅花流千葉県奉詠大会が行われました。梅花流は一九五二年の道元禪師七百回大遠忌の際に、宗門の教えと両祖さま（道元さま・瑩山さま）のご生涯をわかりやすく世の中に広めることを目的として設立されました。両祖さまを讃え、ご先祖さまを敬うこころを唱えます。その歌は日本の風土と暮らしの中で生まれたメロディで、やさしく穏やかな曲調です。

現在、六千四百の梅花講があり、日本国内はもとより、海外も併せておよそ一七万五千人の梅花講員さんがいます。平成十四年から始まつた真光寺梅花講の皆さんも月に二回ご詠歌の練習に励み、法要では詠讃歌を奉詠しています。今日は真光寺梅花講の皆さんのお話をいろいろとお聞きしましたのでご紹介いたします。

御詠歌を始めて、何が日常生活で変化は何がありましたか？

知らず知らずと覚えた曲をくちづさむようになり、心地よい時間が増えた。

難しい！と感じるところは？
・音階 자체が難しい。
・音階を表す記号を覚えるのが大変だった。

大会で舞台に上がるときの心境は？
・すごく緊張するけど、その緊張感がいい！
・いい刺激になる

習い始めたきっかけは？

お施食の法要で新野さんが歌う御詠歌の声がとても良かったので、同じように歌えたらいいなと思ったので。新野さんの御詠歌を聞いて心がとても和んだ

音階に乗ってうまく歌えたとき！
・練習前の仲間とのお茶の時間（おしゃべり）や、忘年会（笑）
・みんな（仲間）と同じ事に励めること

いどんなどころが面白ですか？

宗派によつて御詠歌のメロディの特徴が違つてきます。感情を盛り上げるようなドラマティックなメロディもあれば、静かで穏やかなメロディもあります。曹洞宗の御詠歌は穏やかなメロディで、一見（一聞？）すると地味に感じるけれども、歌つていると心が落ち着いてくると皆さん口を揃えておっしゃつていました。現在は七名で御詠歌の練習に励んでいますが、新しいかたも大歓迎！ということでお詠歌を持たれたかたがいたら是非一緒にいかがでしようか？男性もお待ちしています。

「宗派を超えていろんな人が集まつて持続していくけたら嬉しい」と話されていました。皆さん、声が出る限りは続けます！と、元気一杯の笑顔でした。

ご寄進頂き心よりお礼申し上げます。また、皆様のお名前は記名し、仏像の中にお名前を記入してお送りいたします。

合掌

金 壱萬円
志主 渡辺 忠治

安藤 由美子

金 五阡円
志主 高澤 圭介
石木 正利

（敬称略・順不同）

ご寄進者ご芳名

上総自然学校（里山再生活動）



6月 稲の背は膝のあたり



7月 腰の高さまである稲をかきわける



ザリガニ釣りもしたよ

田んぼでは除草剤など農薬を使用しないため、コナギなどの草が元気よく育ちます。無農薬で作物を育てる事の大変さを実感します。



親子で稲刈り



唐箕で米粒と糠殻を選別



こんなに運べるよ！



田んぼの水路掘り



土を掘り起こしての田んぼ作り

上総自然学校のお米作りも今年で七年目となりました。年を重ねることに耕作面積も増え（現在九千平方メートル）、更に今年は餅米や赤米・紫米などの古代米も植え付け、品種も増えました。今年収穫したお米は二千六百キログラム。通年のイベント（開墾、畦塗り、田植え、草取り、稻刈り）を通してたくさんの参加者の方と共に育ったお米です。また、昨年に引き続いでのNTT労働組合さん有志による活動の場として、そして今年は市進学院（学習塾）さんの体験学習「キッズファイールド」の活動の場としても上総自然学校の谷津田は活躍し、賑やかな一年となりました。そんな一年の様子（六ヶ月～十月）をご覧ください！

昔ながらのやり方で鎌を手にザックザックと刈っていきます。稻の束を手に持つこともなかなかできない経験です。お米の重みを感じてもらえたかな？刈った稻は結束してはざ掛けまでやりました。



参加1回につき1kgのお米を進呈。2人で11kgのお米をGET！



レンゲの種蒔き



檀家さんの栗畠で栗拾いも



脱穀体験



落花生の収穫



お芋サツマイモの収穫



新米でおにぎり作り



およそ100合のお米を炊きました！

瓦谷山だより



削ったお箸でお屋を食べるよ



竹でお椀と箸づくり



水路の生き物探し



サワガニ発見！

△袖ヶ浦の宝物発見隊！



カブトムシも見つけたよ

袖ヶ浦の宝物発見隊！(自然観察会)。7月の陸と水路の生き物探しでは、お子様よりも親御さんが夢中になって生き物を探している姿が微笑ましかったです。10月は里山の収穫祭ということで新米を竹筒で炊いていただきました。ご飯に竹の香がほのかに移り美味しい。竹でお椀とお箸も作りました。



竹筒でご飯が炊けた！

市進学院 キッズフィールド



田んぼ1枚稲刈りしました



水路は生き物の宝庫！

参加者の声（アンケートより）

- ・昆虫や植物に対する親近感がわき、興味も広がった。
- ・自然の大切さ、食を作ることの大変さを体感できて子供にとっていい経験・勉強になった。
- ・虫があまり怖くなくなったので良かったです。
- ・食事の際、食材がどうやって作られるかを考えるようになった。
- ・農家の方々に感謝の気持ちを感じました。
- ・お米を前よりも食べるようになった。
- ・子供がご飯を残さないで食べるようになったので、体験の大切さを実感しています。



はざ掛け



大きなカメを見つけた！



稲束を持って



野菜の収穫もしました

お米売っています！

上総自然学校イベント予定

△風景を開きませんか？
(森林整備イベント)

- | | |
|---------------------|-----------------|
| ①平成二十三年一月二十二日(土) | ・平成二十三年三月十二日(土) |
| ②平成二十三年二月十九日(土) | ・平成二十三年四月十六日(土) |
| 『畦塗り』 田の畦を鍬で塗りつけます。 | |
| ・平成二十三年四月十七日(日) | ・平成二十三年四月十七日(日) |

（内容 シイタケ菌打ち 笹刈り 他）

△谷津田のお米作り

『開墾&植樹』

△参加費 大人二千円 小学生一千円（保険代込）

※ご参加頂くにはお申込みが必要です。
詳しくはhpをご覧いただくか、お電話
でお申し込みください。

※内容は変更する場合がございます。
ので事前にお問い合わせください。

△品種 こしひかり
△農薬 種から苗までの過程は通常と同じ
(種の消毒剤・いもち病予防剤・消毒剤等)

△肥料 有機肥料
△精米 一時間かけて低温で自家精米して
います

△申込 田植えから収穫まで農薬を一切使
用していません
△価格 玄米 白米 六五百五十円/kg
五百円/kg
六百円/kg
△ faxか電話、メールにてお申し込み
ください。（連絡先詳細は最後の
ページにあります）

☆収益金は「上総自然学校」の里山再生活動費に充当します。

釈迦の十大弟子

住職 岡本和幸

これまで、『修證義に学ぶ』という題で連載していましたが（前号、前々号はお休みさせていただきました）、今回は趣を変えてお釈迦様のお弟子達を紹介したいと思います。

お釈迦様の中でも最もすぐれた人々を十大弟子といいます。十大弟子という呼び名は「仏説維摩詰經」や「仏説灌頂七万二千神王護比丘呪經」などの中にみられます。これらの弟子たちは歴史上確かに存在し、お釈迦様を助け、初期の佛教教団を作り上げた人々だといわれています。それぞれにとても個性的なエピソードが伝承されています。十人の中には将来を嘱望されながらお釈迦様より早く亡くなつた方もいます。しかし多くの方は仏滅後に佛教教団を支え、佛教の教えを広め、教団を大きな勢力に育て上げたのです。特に重要なことは、多くの比丘が集まってお釈迦様の教えを確認し、暗記する集会であつた第一結集に参加し、今日の經典の元を作つたのがこの人々であつたということです。その時に集まつた阿羅漢、つまりさとりを開いた人々が五百人いたことから、五百羅漢の信仰が生まれたとされています。中でも特に重要な人を十六羅漢または十八羅漢と呼びました。この十六羅漢はきわめて物語的で後の創作もあるようですが、当然十大弟子の中にも十六羅漢の中に入っている人もいるのです。

さまざまな伝承の中でお釈迦様と共に生きた十大弟子は、自らの人生の悩み苦しみを背負つた姿をもつて生き生きと表現されています。生身の人間であったお釈迦様を信奉する私どもは、十大弟子を知ることで、お釈迦様をより身近に感じることができるのではないかでしょうか。

一、舍利弗（しゃりほつ）

智慧第一

「舍利子」という音写で『般若心經』にも登場する舍利弗尊者は、仏弟子の中でも最もよく諸經典に登場します。もともとサンジヤヤという方の弟子でしたが、ある日お釈迦様のはじめの弟子となつた五比丘の一人であるアッサジの歩く姿を見て、ただならぬものを感じ、アッサジからお釈迦様の教えを聞かされ、探し求めた師が見つかつたと喜び、親友で共に出家した目連尊者とともに二百五十人の弟子をひきつれてお釈迦様の弟子となりました。智慧第一と称されるように、非常に聰明な方で、頻繁にお釈迦様と問答を重ね、すぐれた素質によつてこれを理解し、お釈迦様はもつとも頼りにされていました。お釈迦様の晩年にはお釈迦様に代わつて説法をされることも多く、目連尊者とともに佛教教団の両輪であり、またお釈迦様の後継者候補の第一であつたといわれていますが、残念ながらお釈迦様が入滅される一年前に病で亡くなられました。その時のお釈迦様の悲しみは深く激しいものであったと伝えています。

三、摩訶迦葉尊者（まかかしよう）

頭陀第一

（金波羅華）の花をひねつてみせられました。皆がその意味を測りかねているときに、迦葉尊者だけが微笑みました。それを見たお釈迦様は、迦葉は仏法の大事を理解したといわれ、自分の坐に迦葉尊者を座らせて説法をさせたという、拈華微笑の話で知られる迦葉尊者は、仏滅後の佛教教団をまとめた方です。お釈迦さまが入滅された時、残念ながら迦葉尊者は臨終に間に合いませんでした。一週間後、遺言により火葬の準備を整え、点火をしようとしますが火がつきません。そこに迦葉尊者も諸經典に頻繁に登場しますが、特に施食会の元になつたといわれる倒懸のお話で有名です。このお話は神通力で亡き母の姿を写しましたといふのです。神通力には六神通といつて、神足通、天眼通、天耳通、他心通、宿命通、漏尽通、の六種類あり、これらすべてに通じていたとされます。ただお釈迦様はこうした能力を使うことを厳しくいさめ、使用することを禁止していたといわれています。ダイバダッタがお釈迦さまに背いて、教団の比丘を連れて独立を計つたとき、目連尊者は舍利弗尊者と共に、比丘達を連れ戻し、独立を阻止したといわれます。目連尊者も仏滅以前、大親友の舍利弗尊者と時を同じくして、対立する教団からの法難によって亡くなられました。

二、目?連（もくけんれん）

神通第一

だれもがあこがれる超能力、神通力を持つていだとされる目連尊者は、舍利弗尊者の幼なじみで、一緒に出家し共にお釈迦様に帰依しました。目連尊者も諸經典に頻繁に登場しますが、特に施食会の元になつたといわれる倒懸のお話で有名です。このお話は神通力で亡き母の姿を写しましたといふのです。神通力には六神通といつて、神足通、天眼通、天耳通、他心通、宿命通、漏尽通、の六種類あり、これらすべてに通じていたとされます。ただお釈迦様はこうした能力を使うことを厳しくいさめ、使用することを禁止していたといわれています。ダイバダッタがお釈迦さまに背いて、教団の比丘を連れて独立を計つたとき、目連尊者は舍利弗尊者と共に、比丘達を連れ戻し、独立を阻止したといわれます。目連尊者も仏滅以前、大親友の舍利弗尊者と時を同じくして、対立する教団からの法難によって亡くなられました。

者が到着され、お釈迦様に礼拝されると自然に火が付いたといいます。お釈迦様が迦葉に後事を託される思いを伝えたエピソードです。

頭陀とは衣食住すべてに執着心を取り払うことで、迦葉尊者は常に粗衣粗食でひたすら仏道修行に勤められた、清廉潔白な人格者であつたといわれています。仏滅後はお釈迦様の後継者として、教団をまとめていましたが、様々な対立意見があつて苦労が絶えなかつたといいます。そこで主だつた人々すべてを集め、お釈迦様の教えを整理確認する第一結集を行い、今日の經典の元を作られたのが、迦葉尊者でした。

四、阿那律（あなりつ）

天眼第一

阿那律尊者はお釈迦様のいとこにあたるといわれています。お釈迦様の説法を聞いているときに居眠りをしてしまい、それをお釈迦さまから叱られてしましました。それを非常に恥じた阿那律尊者は、以後お釈迦様の前で眠らないことを誓いました。そのために目が見えなくなつたのです。しかし、不眠での修行によつて阿那律尊者は六神通のひとつである天眼通を得ました。これは昼夜に関わらずありとあらゆるものを見通す力のことです。心の目が開かれたのです。お釈迦様との間にこんなエピソードがあります。目が見えなくなつた阿那律尊者は特に針仕事が苦手でした。針の穴に糸を通すことが難しかつたからです。そこで「だれかこの針に糸を通して功德を積む人はいませんか」と呼びかけました。「私が通してあげよう」その声はまぎれもないお釈迦様の声でした。

須菩提尊者は被供養第一、無諍第一、そして解空第一と称されました。解空とは簡単にいえば、物事の本来の有様を理解し、様々なこだわりや、執着をはなれ、ありのままの真実を見るることができます。執着心が無ければ、たとえば、物供養を受けても、大小、優劣にこだわらず、供養心そのものに感謝することができます。また心の執着が怒りの心を生み出しますから、それがなければ争いを起こすこともないのです。そのあたりを被供養第一、無諍第一というのです。

須菩提尊者がマダカ国(ビンビサーラ)王から小屋の寄進を受けました。しかし王はうつかりして、こんなエピソードがあります。須菩提尊者はかまわずその寄進を受け、屋根のない小屋に住んだのです。するとどういうわけか大干ばつになつて雨がまったく降らなくなつてしましました。そこで農民達は王に小屋の屋根をかけてくれるよう頼みました。うつかりに気づいた王は、早速屋根

阿那律尊者は驚いて「お釈迦様は功德を積む必要はないでしよう」というと、「私も幸せになりましたよ」と答えたといいます。

五、須菩提（しゅばだい）

解空第一

有名な祇園精舎は、お釈迦様の説法を聞いて感動した、マダカ国(スダツタ)長者が、コーサラ国(しゃさいじょう)舍衛城の郊外、祇陀太子(ぎだたいし)の林園に黄金を敷き詰め、その熱意に動かされた太子から林園を譲つてもらい、精舎を建立し寄進しました。このスダツタ長者の甥である須菩提尊者は、祇園精舎の寄進の日に、お釈迦様の説法を聞いて感動し出家しました。須菩提尊者は被供養第一、無諍第一、そして解空第一と称されました。解空とは簡単にいえば、物事の本来の有様を理解し、様々なこだわりや、執

法第一と称されるように、弁舌に長け、人々を説得していくといいます。ただ説法には言葉での説法である口業説法と、身体での説法である身業説法の二種類がありますから、その容姿と悟りに裏付けられた態度もすばらしい方であつたと思われます。命を懸けて南インドに布教をしてまわるお釈迦様に宣言し、事実次々に教線を拡大していったといいます。殘念ながら布教中に襲われ殺されたとも伝えています。また、まだ出家する以前に兄嫁と駆け落ちをしたという逸話もあります。

七、迦旃延（かせんねん）

論議第一

迦旃延尊者は中インド西辺ウッジエニーの出身で、ウッジエニーの王がお釈迦様を国に迎えようと、七人の使者を祇園精舎に送った時の七人の内の一人でした。迦旃延尊者はお釈迦さまに出会い、そのまま出家してしまつたといいます。後

をかけました。すると程なく雨が降つたといいます。屋根のあるなしを気にも留めない尊者の逸話です。

六、富樓那（ふるな）

説法第一

富樓那尊者は南インド、現在のボンベイあたりの出身で、南インドに仏教を広めるのに大変功績のあつた方です。富樓那尊者はもともとインド西海岸での海洋貿易に従事し、一財産を築いた方でした。貿易商でもあり、船乗りでもあつたようです。しかし航海の船中で、お釈迦様の噂を聞き、財産を捨てて、お釈迦様の弟子となりました。説法第一と称されるように、弁舌に長け、人々を説得していくといいます。ただ説法には言葉での説法である口業説法と、身体での説法である身業説法の二種類がありますから、その容姿と悟りに裏付けられた態度もすばらしい方であつたと思われます。命を懸けて南インドに布教をしてまわるお釈迦様に宣言し、事実次々に教線を拡大していったといいます。殘念ながら布教中に襲われ殺されたとも伝えています。また、まだ出家する以前に兄嫁と駆け落ちをしたという逸話もあります。

にウツジエニーに帰った尊者は王をはじめ国中に仏教を広めました。論議第一というのは議論を交わすことに長けていたというよりも、難解な説教をかみ砕いて理解することに長けていたのだと思われます。お經の中にはお釈迦様が説かれた偈文を迦旃延尊者が解説するという場面が見られます。

ウツジエニーは辺境でその布教は困難を極めたといわれます。その苦労を尊者はお釈迦様に訴え、通常出家して僧になるためには十人の比丘の立ち会いが必要と決められていきましたが、ウツジエニーにおいては五人でいいという特別な戒律が作られました。

八、 優波離（うぱり）

持律第一

優波離尊者はお釈迦様と同じ釈迦族の出身で、元は理髪師を生業としていました。お釈迦様が帰省された際に、阿那律尊者などと共に出家しました。経典編纂会議（第一結集）においてお釈迦様が決められた戒律を確認した時のリーダーでした。戒律とは教団の中での決まりであり、お釈迦様のように目覚めた人になるために欠くことのできない、自らへの諫めです。戒律は様々な事象に合わせて少しづつ加えられ、比丘二百五十戒、比丘尼は三百五六戒あつたといわれます。これのすべてに通じ、それを守り修行に励んでいた方が、優波離尊者でした。

九、 羅？羅（らがら）

密行第一

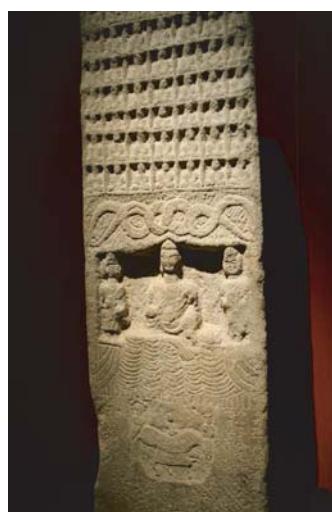
羅？羅尊者はお釈迦様の実の子供です。羅？羅が生まれてから七日目にお釈迦様は出家されたといいます。ラーフラという言葉は「さまたげ」という意味があります。出家の決意が固かつたお釈迦様にとってはその妨げになつたところから命名されましたともいいます。

まだ九歳の時に舍利弗尊者を師とし、目連尊者を教育係に出家します。教団の中で最もすばらしい人々から教育を受けたという意味では恵まれています。しかしお釈迦様の子供ということでは苦労が絶えなかつたであろうことは想像に難くありません。ある時比丘の数が多くて、泊る部屋がありません。教団内では出家からの年数で序列がありましたから、若い羅？羅は廊下で寝ることになつてしましました。当然お釈迦様は部屋でお休みです。人々は世の親ならば自分は床で寝ても子供は安らかに休ませると陰口を言つたといいます。そうした様々な中傷があつた中でも、自分の立場をわきまえ、修行に励み阿羅漢となつて、密行第一といわれるまでになつたのです。密行とは戒律をきめ細かに守り、自らの行いの中ではさどりの姿を表しているといった意味合いでです。

十、 阿難陀（あなんだ）

多門第一

阿難尊者はお釈迦様の徒兄弟といわれています。とても美男で、女性のあこがれの的だったといいます。しかしこの女性からの誘惑によつて欲望をかき立てられて、阿難尊者は悩み苦しんでいたとも伝えられます。女性には縁のある方で、お釈迦様の叔母であり育ての親であるマハープラジャーパティーが出生してから九歳の時に舍利弗尊者を師とし、目連尊者を教育係に出家します。教団の中で最もすばらしい人々から教育を受けたといいます。しかしお釈迦様の子供としては苦労が絶えなかつたであろうことは想像に難くあります。それほど多くのことばを聞いた阿難尊者がなぜ、十大弟子の十番目なのでしょうか。それはお釈迦様の付き人として忙し過ぎたからとか、あまりにも多く聞きすぎて、迷いが生じたからとも言われています。しかし経典編纂会議（第一結集）直前に悟りを開かれ、阿羅漢となつた阿難尊者はこの会議を主導し、私たちが今日経典によってお釈迦様の言葉を聞くことができるるのは阿難尊者のおかげといつても過言ではありません。また今日寺院で広く行われる施食の行持も阿難尊者にちなみ出来上がってきたといわれます。それはある日阿難尊者が瞑想していると、悪魔が来ておまえは三日後に死ぬといいました。尊者は驚いてお釈迦様に相談をしました。お釈迦様は特別の供養の方法を教え、その手法で比丘達に供養することで阿難は死なずにすんだという逸話です。（了）



パティーが出家を希望したときに、お釈迦様は女性の出家には否定的であったのに、阿難尊者が説得して、初めての女性出家者が生まれたのです。阿難尊者はお釈迦様の侍者として、二十五年間片時も離れず、お仕えしました。最もお側で、最も多くお釈迦様の言葉を聞いたので多聞第一といいます。

それほど多くのことばを聞いた阿難尊者がなぜ、十大弟子の十番目なのでしょうか。それはお釈迦様の付き人として忙し過ぎたからとか、あまりにも多く聞きすぎて、迷いが生じたからとも

初詣は菩提寺で

初詣はご家族で菩提寺真光寺におまいりください。お申しだされれば仏殿においてご祈祷法要を行うことができます。

ご祈祷のご案内

真光寺本堂において皆様の一年間の無事並びに所願成就を祈願いたします。

ご祈願内容

家内安全 身体健全 交通安全
車のご祈祷 所願成就

ご祈祷期日

● 1月 2日 午前 9時より午後 5時まで
● 1月 3日 午前 9時より正午まで

1座 15分程度

※ご予約頂ければ、お待たせせずにご案内できます。

ご祈祷お布施 三千円程度 (お守り付き)

書初め写経のご案内

お写経とあわせて諸祈願を書き入れていただいた用紙をご本尊に奉納いたします。写経用紙は寺務所にて販売しております。

ご写経用紙

般若心経二枚組み 三百円程度
舍利札文三枚組み 三百円程度

お寺で書くこともできます。道具も貸し出しますので職員にお申し付けください。また、遠方の方は郵送もできますので、まずはお問合せ下さい。

grill+bar Friends

グリル アンド バー フレンズ



こちらの看板が目印！

天井に水槽！？

FOODS

生ホワイトアスパラの炭火炙り
レモンハーブ和え ¥650～
生スルメイカ炙り焼き
肝のルイベのせ ¥650～ 他

ALCOOL

梅酒 (8種類) ¥580～
焼酎 ¥620～
カクテル ¥580～
ウイスキー ¥620～ 他



店内のまん中にはコの字型のカウンター席。ガラスの仕切りを挟んでテーブル席もあります。



地鶏とたっぷり野菜の
ダッヂオーブン
地鶏とまるまるの野菜類、キノコ類等をじっくり蒸し焼きした
イチオシメニュー！！ ¥850



地鶏もものスパイス炙り焼き
国産ブランド鶏の『絶品古白鶏』
の魅力を存分に味わえる逸品！！
外はパリパリ、中はやわらかジューシーがたまらない！ ¥750



所在地
営業時間

千葉県船橋市西船 4-21-3
月～木 18:00～翌2:00 (L.O. 翌1:30)
金・土 18:00～翌4:00 (L.O. 翌3:30)
日 17:00～翌1:00 (L.O. 24:30)

定休日
TEL

無休
047-431-6098

袖ヶ浦散歩（ちょっと遠出編）

行事予定

【檀信徒】

◇修正会大般若祈祷・年頭法要

平成二十三年一月三日(月)午後二時より

年頭のご挨拶と多幸を祈る法要をします。

法要後の催しにはワハハ本舗コラーゲンハイゴウマンが来山予定です。

◇春季彼岸会法要

平成二十三年三月二十日(日)午前十一時より

恒例の春季彼岸会法要は、右記のように厳修致します。卒塔婆による供養をご希望の場合は、お施主様の名前と「先祖代々」または「お戒名」でご供養かを、お電話等でお申し込みください。

法要後は恒例の落語会を予定しております。

◇花祭り法要・壇信徒総会

平成二十三年四月十日(日)午後二時より

お釈迦様の降誕を祝い、法要後は壇信徒総会を開催いたします。また総会終了後に親睦会を開催いたします。川原井地区の壇信徒の皆様は送迎いたします。役員が出欠を取りますのでお申込み下さい。お電話等にてお申し込みください。

◇婦人会ご詠歌練習日

一月 十一日(火)・二十五日(火)
二月 八日(火)・二十二日(火)
三月 八日(火)・二十二日(火)
四月 十二日(火)・二十六日(火)

時間 各回 時間 真光寺 (どなたでも予約なしで参加できます)

【縁の会会員】

◇七日法要(打ち出し十一時)

一月 「修正会大般若祈祷・年頭法要」 平成二十三年一月七日(金)

【午前】 授戒式・月例供養 【午後】 大般若祈祷法要

二月 「涅槃会・節分」 平成二十三年二月五日(土)

【午前】 授戒式・月例供養 【午後】 坐禅・写経

三月 「彼岸法要」 平成二十三年三月七日(月)

【午前】 授戒式・月例供養 【午後】 坐禅・写経

四月 「植樹祭」 平成二十三年四月九日(土)

【午前】 授戒式・月例供養 【午後】 植樹祭

*昼食準備の都合上、ご出席いただく場合は必ずお電話等でご予約下さい。
午前のみ・午後のみのご参加もできます。

*電車・バスでの参加の方には送迎を致します。お電話等でご予約下さい。

■送迎時間

□電車の方 JR内房線「袖ヶ浦」駅 10時10分着
□バスの方

【土日祝】

品川発9時35分→袖ヶ浦BT10時22分着
横浜発9時40分→袖ヶ浦BT10時22分着
川崎発9時25分→袖ヶ浦BT10時14分着
品川発9時25分→袖ヶ浦BT10時12分着
横浜発9時30分→袖ヶ浦BT10時12分着
川崎発9時15分→袖ヶ浦BT10時04分着

【平日】

品川発9時25分→袖ヶ浦BT10時12分着
横浜発9時30分→袖ヶ浦BT10時12分着
川崎発9時15分→袖ヶ浦BT10時04分着
10時40分頃までにお越しください。

□お車の方

各種お申込み連絡先

TEL 0438-75-7414 (代表)

TEL 0438-75-7365 (縁の会事務局)

FAX 0438-75-7630

e-mail ennokai@shinko-ji.jp (縁の会)

satoyama@shinko-ji.jp (上総自然学校)